

別紙2 企画書総合評価基準

(1) 企画の趣旨

項番	評価項目	評価の観点
1	目的、意義	本業務の目的及び意義を正しく把握し、それを踏まえた基本的な考え方、取組方針が具体的であり、かつ内容に妥当性があること

(2) 座長及び外部専門家の選定

項番	評価項目	評価の観点
1	人選	当該システムと関係のない座長及び外部専門家を選考していること

(3) 検討会の実施計画及び作業スケジュール

項番	評価項目	評価の観点
1	実施計画	実施計画について、具体的かつ有益な企画がなされていること
2	作業スケジュール	本件を実施するために必要なそして無理のない作業見積、工程、期間が具体的に記述されていること

(4) 調査・検討の実現手法

項番	評価項目	評価の観点
1	業務分析	本システムを利用して行われている業務を整理し、特に、大型電子計算機を利用して行っている業務については、業務フローや業務量を明らかにし、業務目的に対して、必要かつ十分な業務処理が実現されているか(過剰な業務処理が含まれていないか)の観点から、業務分析を行う。
2	システム分析 (各論:大型電子計算機を利用する業務処理とシステムとの関係)	近年の技術進歩等を踏まえ、今後も従来同様に、業務処理に大型電子計算機を用いることが適切かどうかの分析を個別業務に対して行い、こうした個別業務とシステム構成との整合性の是非を踏まえ、不特定多数の様々なプログラムのいわばプラットフォームとして、業務処理に大型電子計算機を使うことが適切かどうかを検討する。例えば、今後も業務処理に大型電子計算機を使うことが適当とされる場合にも、現行のシステム構成(システムの規模も含む)や運用体制を見直す必要がないかについて、検討する。
3	システム分析(総論)	業務分析を踏まえ、必要とされる業務処理に対して、必要かつ十分な性能が発揮できるシステム構成(ソフトウェア面も含む。)となっているかの観点から、システム分析を行う。システム分析においては、システムの安定性・信頼性、セキュリティの確保の観点も含めるものとする。 システムの安定性・信頼性 各種経済統計作成や経済分析におけるデータ公表の迅速性・重要性・特異性を踏まえ、安定性・信頼性確保の観点から、現行システムの構成(ハードウェア、ソフトウェア、データベース、ネットワーク及び開発・運用環境等)等について検討すること。 セキュリティの確保 データのバックアップを含め、セキュリティ確保の観点から現行システムの構成・運用等を検討すること。
4	現行システムの経済性(コスト面)の評価	現行システムの経済性(コスト面)について、必要な機器(ソフトウェアを含む。)の費用算定方法の妥当性、契約・調達方法の観点を中心に評価を行う。ここでの主な検討事項は以下の通り。 ・随意契約の費用算定方法の妥当性 ・契約方式を変更する場合の課題及び問題点 ・汎用パッケージの利用やオープンシステム化の実現可能性 ・海外の同種システムや国内の類似システムとのコスト比較
5	まとめ	現行の業務・システム・契約方法についての評価を踏まえ、具体的な改善策(スケジュール、必要経費の概算を含む)を示し、利便性を下げずにトータルコスト(初期コスト+ランニングコスト×耐用年数)を下げられるか否かの結論を下す。

(5) 調査体制(システム監査、システムコンサルティングの実績等)

項番	評価項目	評価の観点
1	責任分担	責任分担が明確な実効性の高い調査体制であること
2	システム監査人等の配置	実施体制の中における、2年以上の経験を持つシステム監査技術者、公認システム監査人、公認情報システム監査人が雇用され配置されていること
3	他システムでの実績等	実施体制の中における、大規模システムのシステム監査実績若しくはコンサルティングの実績を有する者を配置していること

(6) 見積価格

項番	評価項目	評価の観点
1	見積価格	予定価格の範囲内で、適切な価格であること

(7) その他(必須ではない)

項番	評価項目	評価の観点
1	その他の追加作業	本件の請負業務において、有益と考えられる企画がある場合、これを具体的に記述すること

(8) 添付資料

項番	評価項目	評価の観点
1	企画書で根拠とする資料	企画書で根拠とする資料がある場合、これを具体的かつ詳細に添付すること